

平成 30 年度 第 1 回 市長と市民とのくつろぎトーク 「市民の方には今の多摩市はどう映っているか」

平成 30 年 9 月 1 日（土）10 時 00 分～11 時 30 分

会場：永山公民館 学習室

参加者：7 人（男性 5 人、女性 2 人）

司会（秘書広報課長）

ただいまから市長と市民とのくつろぎトークを開催します。本日は皆さま大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

まず初めに市長と市民とのくつろぎトークについての説明をさせていただきます。

この事業は、在住、在勤、在学の市民の生の声を、様々な機会の中で、市長が直接伺い、政策への参考にしていくために実施するものであります。

平成 22 年度に「市長と市民との対話会」として始まり、市内の企業や大学、公民館事業の実行委員の方々など、多くの方にご協力いただき実施してまいりました。

本年度第 1 回目である今回は、市民の方を対象に無作為抽出と公募で参加者を募集し、市長と市民とのくつろぎトークと題して行います。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、市長から挨拶をお願い致します。

市長

本日は、皆さま大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

本日は、名前のおりくつろいでお話いただければと思います。この夏は、気候の変化が激しく、7 月は酷暑だったかと思えば、8 月は秋風が吹き、そうかと思ったら、また暑くなったりと異常気象や地球温暖化を肌で感じるような日々でした。人口が右肩上がりだった頃には、オリンピックは 10 月に開催していました。これは一例ですが、市民の方が「何故」と思うような変化も色々ありました。私もオリンピックと同じ、4 年に一度の選挙で選んでいただいた市長です。移り変わっていく中で何がベストか考えていけないといけません。4 月から市長 3 期目となりました。ワークショップや説明会など、多く開催してきました。本日は、無作為抽出で当たった方、公募で参加された方にお越しいただきました。限られた時間ですが、より良い多摩を創るためにご協力よろしくお願いいたします。

*事務局自己紹介

*各自自己紹介の概略（発言順）

- Aさん 地域：永山5丁目、 多摩市居住歴：約30年
- Bさん 地域：諏訪1丁目、 多摩市居住歴：約15年
- Cさん 地域：諏訪2丁目、 多摩市居住歴：約5年
- Dさん 地域：永山3丁目、 多摩市居住歴：約7年
- Eさん 地域：一ノ宮1丁目、多摩市居住歴：不明
- Fさん 地域：一ノ宮1丁目、多摩市居住歴：不明
- Gさん 地域：永山3丁目、 多摩市居住歴：約35年

市長

最初に自己紹介をしていただきたいと思います。順番にお名前、お住まいの地域、参加のきっかけ、たま広報を読んでいるかなど、お話いただければと思います。

Aさん

住まいは永山5丁目です。多摩市には、約30数年住んでいます。途中、海外やその他の土地も行き来しながら生活してきましたが、家族はずっと多摩市に住んでいます。たま広報は毎回読んでいます。参加のきっかけは、たま広報で知って応募しました。75歳なので本業は退職し、現在は2つの民間企業で相談役をやっています。あとはほぼ自由な時間を満喫しています。

Bさん

現在、大学生です。諏訪1丁目に住んでいます。多摩市には、15年ほど住んでいます。今回参加したきっかけは、無作為抽出なのですが、大学で地域行政や地方創生を学んでいて、市長と話せる貴重な機会なので参加を決めました。正直に申しますと、今までたま広報は読んでいないのですが、今後は読んでみたいと思います。

Cさん

諏訪に住んでいます。多摩市に越してきて5年ぐらいです。無作為抽出での参加ですが、直接市長と話す機会は滅多にないと思い参加を決めました。今日は、皆さんの話を聞いて、市をもっと理解したいと思います。たま広報は、毎回ではないですが目に留まったときに読んでいます。

Dさん

東日本大震災の10日前に多摩市に引っ越してきました。23区の生活が長かったので、それと比べると多摩市は違うなと感じました。前回の募集時は、気にはなっていたのですが結局応募しませんでした。生活の小さなことですが気になっていることがあるので今回は参加を決めました。

Eさん

一ノ宮に住んでいます。現在、大学生です。たま広報は、あまり読んだことがありません。今回は、少しでも多摩市を知ることができたらという思いと市長と直接お話する機会もあまりないと考え参加を決めました。

Fさん

実は、無作為抽出で二人とも選ばれたのですがEとは親子です。お互い知らずに申し込みをして、今日始めて同じ会に参加するのを知りました。私は、〇〇〇クラブの代表を10年ぐらいやっています。表彰のときは市長にいつもお世話になっております。ありがとうございます。たま広報はよく見えています。特に、東京ヴェルディの教室に関する記事などよく見えています。本日は、せっかく無作為抽出で選んでもらったので、市長と是非話がしたいと思い参加しました。

Gさん

永山3丁目に住んでいます。73歳です。昭和59年に引っ越してきましたので、多摩市には34、5年親子4人で住んでいます。たま広報はよく読んでいます。大体見るのは傍聴・会議の記事です。市役所職員にはクレマーと思われるかもしれませんが、夜に外を歩くと電球が切れていることに気づいたときは、土木課や市民課に電話しています。うるさいやつだと思われるかもしれません。最近、多摩市は遊歩道がすごく整っているのを発見しました。若いお子さん連れに声をかけて、多摩市のどこが良いと思うか尋ねると「環境が良い」という答えがよく返ってきます。たしかに歩行者と車が走るところがニュータウンは別れているので安心です。多摩100年計画がありますが、計画から50年経ちました。前にシンポジウムに出たこともあります。多摩市はあと50年が勝負だと思っています。その時の大学の先生の話に少し違和感があったので、今日はその辺をお聞きしたいと思い参加しました。

市長

ありがとうございました。Gさんのお話にもありましたが、これから多摩市をはじめ、日本の人口は減少していきます。ただ、世界的には人口は増加しています。現在、人口減少の多くはアジアの国々で起こっている問題です。このような大きな話もありますが、今日は皆さんがご関心のあること、小さいことでも結構ですのでお話をお伺いできればと思います。早速ですが、先ほどDさんが気になることがあるとおっしゃっていたので、そちらからお聞かせいただければと思います。

Dさん

永山に住んでいるので、バス通りを降りてコープやグルメシティの方に買い物に行っ

います。皆さん、嫌われているかもしれませんが、野良猫に市民権を与えてほしいと私は思っています。

せっかく多摩市はハローキティちゃんのまちなのに、ハローキティちゃんは猫なのに、猫をもっと大事にしようよと思います。「猫に餌をやらないでください」は、今は動物愛護法に違反すると聞きました。糞の始末の問題があるとは思いますが、犬の散歩で糞は始末する人が多いですが、おしっこはペットボトルを持ってきて水で流している人なんて一人も見ることがありません。それなのに全て猫のせいにするのはおかしいです。小さなことですが、過剰に悪者扱いしないでほしいです。例えば「ここは猫の餌場です」と行政にアナウンスしてもらって、こういう人たちが何もできないようにカモフラージュすることはできないのですか。

市長

猫の話とコミュニケーションのとり方の話、2つが問題提起されたと思います。ご家庭の猫と野良猫がありますが、野良猫の場合、避妊手術しないと際限なく増えていってしまいます。地域猫の活動は、獣医師会にも協力してもらい市でも応援しています。今、お話に出たようなケース以外にも各地域で問題になっていることもたくさんあります。先日、市内のあるお宅が引っ越しをされたのですが、何十匹もの猫だけが残されていたそうです。実は、そうした問題への対処を行政にお願いされても難しいところがあります。決して猫に非があるわけではありません。人間が猫と共生していくにはどうすれば良いか。地域猫の活動では、避妊・去勢しながら地域で見守るということをしています。市では、担当はコミュニティ・生活課というところでやっています。

また、生き物との共生ということでは、ペットとして犬や猫以外に爬虫類や亀を飼っている人もいます。亀は亀でもミシシippアカミミガメという、元々国内にいなかったものが大きくなって、飼えなくなったので池に放すという行為も問題になっており、市でも困っています。猫については、地域でどうコミュニケーションをとって解決していくのが課題です。

Dさん

猫を南多摩尾根幹線道路に車で連れてきて逃がすという行為もあるようです。永山の猫は、もしかしたら多摩市の猫じゃないかもしれません。町田市は、行政対応が良くて猫の問題がないと聞いています。

市長

おそらく猫の問題がないところはないと思います。八王子市も町田市もそうですが野良猫の問題は大きな問題になっていてどこも大変だと思います。

Aさん

実は私も野良猫を飼っています。近所の方が猫と一緒に引っ越したのですが、猫だけ戻ってきてしまいました。新しくその家に引っ越してきた方も小屋だけ建ててあげたのですが、その方は家にいないことが多く、餌は私もあげていて、共同でその野良猫を飼っているような認識です。猫を嫌う方、犬を嫌う方もいます。石を投げられたり、水をかけられたりしたケースもあったようですが、猫は庭に水を撒くだけでかなりおびえてしまいます。日本のような野良猫への対応はちょっと他の国では考えられないと思います。確かに、その猫も野良猫生活が長かったため外で寝てしまい、家猫にできないでいますが、両方の家のサンデッキに小屋を作って住ませ、両方の家で餌をあげています。もちろん獣医師に相談して、避妊をしてさくらねこ(地域猫)とわかるように耳を切っています。結局、トイレを用意してもそこでしないので、近所の方には迷惑もかけていると思います。日本は、多くの自治体は猫への対応ができていないと感じます。国もできていません。できているのは一部の自治体だけです。多摩市は猫が多い地域ですが、全くいない地域もあります。これは行政というよりも広報の問題だと思います。動物と共生するには地域で意見交換を定期的にやる必要があると考えます。広報紙面などで市民が意見を交換できる場があったらと思います。

Fさん

うちの近所の猫は、子どものときからずっといて、家の中に入ってきてても自然に受け入れていきます。一ノ宮の地域は昔からいじめとかなく、そういう感じだと思います。

Cさん

遊歩道も歩くのですが、私が住んでいるところでは猫はあまりみかけません。鳩に餌をあげている人はみかけますが。

Gさん

考え方に個人差があるので猫の問題は難しいです。別の問題ですが、蛇や亀など特殊なものは登録制にして管理しないと、逃げ出したとき人に被害が出ると思います。猫も登録制みたいになっているとは思いますが、これだけ野良猫がいるということは、地域の人が気をつけあってやらないと終らないと思います。

市長

事務局から地域猫の対応について皆さんに話してください。活動されている方は基本ボランティアです。各地域でトラブルもあります。市は基本動物愛護の精神に則り対応をしています。Aさんは、きちんと避妊・去勢をして野良猫をかわいがっていますが、さくらねこは去勢しているしるしとして耳を一部カットしていますが、一方でそういうことを猫

にしたくないという人もいます。Gさんがおっしゃったように個人のお考えがあるので、なかなか行政が手を出しにくい状況です。結果として、引っ越しすると猫だけが30匹、50匹取り残されてしまう。これは、モラルの問題なのですが、Fさんの地域のように猫とも共生していくのが最も望ましいとは思いますが。

企画政策部長

市でこんなことをしていますというお話をさせていただきます。

多摩市では、先行している東京都や他の自治体のガイドラインを参考に昨年の11月頃に地域猫とどう共生していくのかを書いたガイドライン（多摩市地域猫活動ルール）を作成しました。市としては、皆さんとの協働や普及、啓発を開始したところかなと思っています。東京都のガイドラインでは、大きな視点として6点程あげています。①猫を排除ではなく命のあるものとして扱う②飼い主のいない猫を減らしていこう③地域の問題として住民が主体的に取り組んでいきましょう④飼い主は適正に飼育しましょう⑤地域の実情に応じたルールをつくろう⑥猫を好きでない人などの意見も尊重しましょう。今あげたように、地域でのルール作りが必要としています。こういうものを参考に市としても取り組んで行きたいと考えています。地域での活動を不妊・去勢手術をすることを目的にしてしまったり、地域の対立を深めてしまったりしてはいけないということで、皆さんと一緒に考えていきましょうということを始め出した段階だと認識しています。

市長

地域猫活動にご協力いただいている方、言い換えれば自分たちの地域の猫を守っていききたいという人たちもいれば、自治会や管理組合などによっては、厳しい視点のところもあります。マンションによっては、動物が飼えないところもあります。これについては、地域で議論していただきたいと思っています。行政がああしろ、こうしろと言うのではなく、地域として猫たちとどう共生していくかというのが鍵です。たま広報でも議論の場を提供してほしいというアイデアを頂きました。一つのテーブルについて考えていく必要があります。地域猫の問題については、これからも取り組んでいきたいと考えています。

Dさん

あれも駄目、これも駄目では良くないと思います。高齢者の一人暮らしは寂しいです。今、都営住宅を建てていますが、棟によって猫や犬を飼って良いというところと駄目なところを募集の段階で分けてするなど考えてほしいです。飼い猫は、飼い主の引っ越しで捨てられ、行き場がなく彷徨っているんです。猫を飼った時点で去勢することを広報紙で広めてほしい。猫に市民権を与えてほしい。「餌をやらないで」ではなく、「大事にしましょう」と広報してほしい。ハローキティちゃんがかawaiiそうです。

その辺にいる猫に責任はないんです。北にある一戸建ての家から猫が来て、子どもをつ

くっていました。その猫がいなくなって、目に見えるように猫が減りました。飼う人がちゃんとしなからいけないんです。野良猫のせいではありません。行政から飼い主にきちんと去勢しましょうと言ってほしいです。

市長

市も取り組んでいきますが、バランス良くやっていきたいと考えています。

多摩市の特徴ですが、都営住宅・公社住宅・URが多いです。先ほどDさんが募集段階で、ペット飼育の可否を棟ごとに決めてほしいとのご意見がありましたが、市が募集しているわけでないので、非常に難しいです。多摩市の都営住宅といっても都全体の募集ルールでやっていますので。

Dさん

市民個人ではできないので、市で意見をあげてほしいです。

市長

これは多摩市単独ではなく、猫や家賃、サービスを含め、東京都全体の都営住宅、日本全体のURの課題です。URの家賃等については市も強く話をしています。ですが、なかなか地域ごとの対応は難しいということみたいです。それはおかしいと声をあげています。市の特徴としてUR 7千戸、都営住宅5千戸もありますので、何とかしたいのですが市としてできることが少ないです。当然、それに甘んじてはいけません。高齢者が増えている中で、多摩市だけでなく東京都全体で考えていく必要があります。多摩市だけのローカルルールは難しいので、都にも強く言っていきたいと思えます。

Dさん

猫をいじめないようにだけ広報紙でお知らせしてください。

市長

わかりました。一ノ宮や関戸ではムクドリの問題があります。この問題でも市民によって意見がわかれています。木を伐採して追い出すべきという人やムクドリとも共生していくのが私たちの務めと考える人、それぞれの考え方があります。地球温暖化などの影響で、相模原市に猪や熊、鹿が出没したり、多摩市の生産農家のところには、アライグマや狸、ハクビシンの被害も多いと聞いています。地域の中で動物と共生していくために、昨年、生物多様性ガイドラインを作成しました。どうしたらあらゆる生物と共生共存できるのか。お祭りで売っているミドリガメ、正式にはミシシippアカミミガメという外来種ですが、大栗川や多摩川などに流されたりしています。豊ヶ丘の池にもすごい数の外来種がいました。自分たちが飼えなくなったから流すというのはとんでもない話です。これは市のせい

ではありません。他にもペットのオウムが大きな問題になっています。自分の家で飼えなくなると外に逃がしてしまい、隣の町田市や川崎市では大量のオウムが発生しています。住民や生態系などあちこちで影響がでています。通常、このオウムは亜熱帯でしか住めないのですが、地球温暖化の影響で日本の環境でも暮らせるようになったようです。このように、猫だけではなく、どう他の生き物と共生していくのかを考えていかないといけません。家でペットを飼うときも避妊・去勢をしっかりとしてもらう。外に逃がさない。行政が本来やることなのかという考えもありますが、限られた財源で行政として何ができるのか。当然、飼い主やペットショップ等の責任が第一ですが、地域社会で他の生き物と共生していく前提が必要だとは思っています。動植物でも同じことです。花を咲かせたいという方が大勢いますが、むやみやたらに外来種の種を蒔くと日本古来の生物が死滅してしまいます。これもしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

他にご意見のある方はいますか。

Gさん

多摩ニュータウンができて50年経ちました。各街区に公園・スーパー・商店街があるという構想でしたが、時代の流れで日本全体の少子高齢化が進み、商店街はスーパーに食われて活気がなくなってしまいました。これは仕方のないことだと思います。また、街区ごとに学校がありますが、廃校になったときに住宅に転用するというには納得できません。これから少子高齢化を前提で国政を進めていくという発想ではないと思いますので、いずれ移民政策で住宅が必要になると思いますが、それとともに学校も必要になります。一度、住宅になってしまうと再び学校に転用するのは難しくなります。今、都営住宅の建て替えをしていますが、学校の跡地を利用しています。多摩市の50年後の構想はどうなっているのでしょうか。このまま少子高齢化でいけば日本は衰退してしまいます。私は、移民政策が必要だと考えています。ブラジル日系人が既に日本に来ていますが、お互いに移民政策をやっていかないといけないと思っています。里山らしい風景を残すということを市は言っていますが、永山北公園は、半分は里山、半分はきれいな公園に整地されてしまいました。幼稚園に通う子どもたちは里山の方に遊びにいらしています。起伏や落ち葉など自然を楽しんでいます。きれいな芝生は楽しくないみたいです。あまりいじくらないで、最初の発想を考えた上でやっていただきたいと思っています。それと遊歩道のことを「ペデ」と何故言うのかわかりません。正式にはピDESTリアンデッキなので、発音的には「ピデ」だと思います。市議会でもペデと言っていました。これでは外国では通じません。どうせなら通じる言葉で話していただきたいです。他にもこういうことが多く外国で通じないということが結構あります。

市長

「ペデ」というのは、国土交通省が使っている言葉です。語源は私もわかりませんが、

都市計画でそうなっているようです。これは、多摩市だけではなく全国的にそうなっています。

Gさん

では、改善してもらうためには、国土交通省に言わないと駄目ですね。

市長

こういうのは確かに多いですね。

次に学校跡地の転用についてですが、多摩市の人口はピーク時の14万8千人から20年間人口があまり変わっていません。ただし、子どもはピーク時に2万人いましたが、今は1万人と半分になってしまいました。これは、どこの自治体も同じような状況です。学校が廃校になっているのは、ほぼニュータウン地区です。既存では竜ヶ峰小学校を帝京大学に買っていただいて、帝京大学の付属小学校になりました。跡地が他に何になっているかですが、旧南落合小学校が東京医療学院大学に定期借地されています。東京医療学院大学は、介護や看護を学ぶ人材を育成し、学校法人日本医科大学と協力して、市内の看護学校や病院に勤める人もいます。旧南豊ヶ丘小学校は、東京多摩フットボールセンター南豊ヶ丘フィールドとして、東京ヴェルディの関係団体である東京グリーンスポーツリンクに貸し付けています。ここは、サッカーを学ぶ小中学生の聖地になっています。校庭は人工芝に整備されています。このように有効活用は結構しています。ご指摘の都営住宅の用地は、都と協定を結び、土地は市が提供し、代わりに最終的には建替事業で創出された土地をもらえることになっています。

Gさん

等価交換ですか。

企画政策部長

現在は、跡地を貸しているような状況です。等価なのか等積になるかはわかりませんが同じ分を返してもらうことになっています。

市長

住んでいるところを壊して、仮の都営住宅を建てる方法と今回のように学校跡地を提供し、そこに新しい都営住宅を建てる方法があります。今回の方法をとった場合、そうでない場合と比べて、建て替え期間が短縮され10数年で済みます。短縮しないと20年以上は掛かると思います。

多摩ニュータウンは計画的につくられたまちです。東京都としては、他にもっと古いところがあるので諏訪は優先順位が低かったのですが、市として多摩ニュータウン再生検討

会議の会合を作ることで、東京都を巻き込んで、できるだけ早く進めてほしいと伝えてきました。

司会（秘書広報課長）

期間の話もありますが、通常は、一回仮住まい作って、それを壊して元の場所に帰ってくるという流れです。今回は、住む場所は変わりますが、完成するとそのまま引っ越しができます。元の空いた土地は壊して創出用地にします。

Gさん

我々がマンションを建て替える場合は、仮住まいに引っ越さないといけません。誰でも入れるわけではない都営住宅の人はそれを免れることができるというのは、違うんじゃないかと感じます。建て替えにはそれなりのリスクがあつてしかるべきだと思います。

市長

リスクを承知で住宅ローンを払って住み続けています。昭和 30 年代から 40 年代のことを考えると、公営住宅に安く住むことで、将来戸建てやマンションを買う資金を貯金するという考えがありました。日本はそこから経済成長してきましたが、ここ 2、30 年間は低成長、銀行のゼロ金利と、高度経済成長期には想定していないような状況になってきました。Gさんがおっしゃったことは、そういうことが原因で起こっていると考えています。公営住宅は必要だという認識で作られたものであり、自治体も責任をもって整備していきたいと思っています。なぜ、都営住宅に住んでいる人の利便性のために共有財産をとるという思いかもしれませんが、そこはバランスと公共住宅をどう考えていくのか、その上で判断していくしかないと考えています。

Gさん

バランス、公共住宅の在り方ということですが、URはいっぱい空いています。

市長

URは、他の公共住宅とは別なのですが、将来的にはURも含めて対応できないかという気持ちもあります。今の課題です。またURも空いていることは空いているのですが、家賃の差額を誰が負担するのかという問題もあります。東京都が進めている都営住宅の優先順位の付け方については、今回の建て替えによって変わってきます。今までは 40 平米から 45 平米で 3DK、今はここに一人で住んでいます。今は、圧倒的に一人暮らしの方が多いので、今後は 20 平米から 60 平米台までファミリー世代を含めて、一人でも住めるように設計しています。昔の都営住宅は、浴槽に高さがあつて高齢者はお風呂に入るのが大変な状態です。お風呂のニーズに応えるためだけではないのですが、早く建て替えてもらわ

ないといけません。コミュニティセンターでもお風呂を無くすときに皆さんにご迷惑をおかけしましたし、今残っている老人福祉館のお風呂もどうしていくかというのも大きな課題です。前提として、都営住宅の早期建て替え、利便性の向上をしていただかないと市の財政負担が大きくなってしまいます。このあたりについては、もう少し丁寧に説明できる時間があれば良いのですが。

Gさん

わかりました。

Aさん

高齢化によって、当初のプランとはかなり違ってきていると思います。都営やURの住宅も違ってきていると思います。学校跡地を含め、これから建てる施設は住宅専用ではなく、企業のオフィス、小さな工場、店、テナントなどの機能があると良いと思います。豊島区の新しい区役所は、私も見学したのですが役所の仕事とは思えませんでした。多摩市は東京の郊外にありながら交通の便も良くなってきていますが、孤立している感じもします。どこを優遇するかよりも、若い学生や所得が十分ではない若者に来ていただけるように、都営住宅やURに入れるようにしてほしい。都営住宅の要件や所得制限を考えると、その人がもっと高齢になると生活保護世帯も増えてくるわけですから。現状でも多摩市はそういう費用が多いわけですから、当然それは医療費にも影響してきます。これでは、益々住みにくいまちになってしまい、多摩市は衰退するしかなくなってしまいます。市の予算の総額は増えていますし、人口は増えていません。議事録で見ると過去の座談会でも度々取り上げている「多摩市は緑が豊かである」。これを唯一の自慢にしています。しかし、海外には緑が豊かなまちがたくさんあります。多摩市は無計画に緑を増やしているだけではないでしょうか。作る時はお金がそこそこあっても、剪定するにも費用が掛かっています。きちんと植樹もできてないために木が巨木化しています。木も高齢化し、強風で倒れる可能性もあります。交通作業車を投入しないと剪定できなくなっています。自然の里山も計画的に作った公園も維持管理費が馬鹿になりません。多摩市には造園業者がたくさんありますが、自分で庭の手入れできないので、頼むと市の依頼が一杯で対応できないと言われました。私の場合は、わざわざ練馬区から造園業者を呼ばなくてはいけませんでした。これでは、多摩市は造園業者を潤わせるために木を維持しているという見方もできるのではないのでしょうか。里山の形が良いのか、公園が良いのかは別にして、それ以上に交通安全に大きな課題があると感じています。一つの例として、行政が管理する道路には国道・都道・市道がありますが、団地内に市の管理する車道と歩道があります。間に植え込みが作られているのですが、その植え込みの深さ、密集度が場所によって全然違います。そのために車を運転すると茂みから他の車が出てきたり、子どもやお年寄りと接触しそうになったりとヒヤリとすることが私も何度かありましたし、そういったことが事故に繋がるこ

とも現実にあります。他の国では、植栽に高さ制限があるのに、多摩市は低いものも高いものもあります。たぶん予算が潤沢にないからだと思いますが、車道に木が出ていて自転車やバイクに乗っている人が避けると、車の前方に人がいて衝突、ということが多々あります。ガードレールの上にも植栽があって、この辺の維持管理が十分にできていないのが伺えます。クレーマーと思われるかもしれませんが、瓜生緑地のカーブミラーが木の枝で見えなくなっていたので、市に電話してもすぐに対応してくれませんでした。その後、市役所に直接伺ったら 1 週間ぐらいでやってくれたのですが、それも交通安全としては不十分な状態の剪定で、半年ぐらいでまたカーブミラーが見えなくなっていました。そういうことが多々あります。緑豊かな多摩市というキャッチフレーズも良いですが、緑によって貧乏になっていくのではないかと心配です。何でもかんでも木を植えるのではなく、伐採するところは伐採する。一定の高さで木の成長で止める手立て、例えばそういう種類の木を植えるとか、この辺の思い切りが必要なのだと思います。このままでは、大変なことになります。私が住んでいたロサンゼルスでは、行政が管理するところ、ディベロッパーが管理するところ、自宅に面している樹木は、その住民が管理していました。行政を間に入れないという仕組みがありました。私の所属している自治会では、市の仕事として「清掃デー」で瓜生緑地内の落ち葉を片付ける仕事があります。高齢者が多い中でやっています。市から自治会に依頼があったときにやれば、市の収集業者が袋を回収しに来てくれるが、そうではないときは、自分たちで清掃工場に持っていかなくてはなりません。こんなことはバラバラで無計画だと思います。今後のコストを考えていくとき、住宅と緑は大きな課題です。あとは働く場所です。若い人が働ける場所が必要です。働ける場所が近いところがないとまちとして成立しません。多摩市はアップダウンが大きく、高齢化が進めばとても歩けない広大な土地です。車道と歩道の整備をきちんとやらないと自転車が車道を通るため危険です。道交法では小さい子どもは大丈夫のようですが、自転車も軽車両です。特例で歩道を走って良いという看板がまだあります。無灯火、イヤホン、スマホを見ながらという人もいます。植栽による死角が多いため特に危険です。市の予算を全面的に見直していく必要あると感じています。市の収入・支出を調べてみたのですが、企業の決算報告とは違い、明細が出ていないのでよくわかりませんでした。おそらく、植栽の整備費用もかなりの負担になっているのではないかと感じています。その辺どう感じていますか。

市長

多摩市には都道もたくさんあって、石原さんが都知事のとときに東京都が街路樹 100 万本計画というのがありました。植栽について A さんがおっしゃっていた大部分は多摩市の管理している所以外だと思うのですが、実は東京都と多摩市と二重三重で管理しているところがあって、おっしゃるとおりだと私も感じています。街路樹は 5 メートルとか 8 メートルとかの間隔を空けて植えなくてはいけないというルールがあるのですが、そもそも多摩ニュータウン計画が作られたときに、どちらかという和多摩ニュータウンエリア内では、

早期に緑を復活させるということで、かなり間隔をつめて植樹された経緯があります。瓜生緑地については、何とかしたいと東京都市大学の涌井先生にお願いし、私が市長になったときに「みどりのあり方懇談会」をつくりました。そこで徹底的に議論して「みどりのルネッサンス」という方針をつくりました。多摩市には500億円以上の予算がありますが、みどりの管理に関する費用として街路樹2億円、公園樹木5億円ほど掛かっています。ピーク時は、これが8億円から10億円掛かっていました。瓜生緑地は本来日本庭園としてつくられました。日本庭園なら本来はもっと小まめに管理しなくてはなりません。多摩市ではあまり手をかけられなかったのが、樹木が巨木化し、とても日本庭園とは言えなくなっていました。現在は、集中的に投資して、池をきれいにし、見通しも良くなりました。また、日本庭園であれば、業者の資質を上げていかないとはいけません。専門家の力も借りて、造園業者の資質向上の研修も行いました。過去を追求するより、今どうするかが大事です。もっとお金を掛けていかないといけないのですが、市民一人あたりの木に掛けている予算は他の自治体に比べてものすごく低いです。市の予算は道路と公園を併せても年間8億円ほどです。これは、一人あたりにするとすごく少ないです。それだけ多摩市の緑の率が大きいことが要因です。具体的には、多摩市は街路樹1万7千本、日野市は3千本と約5倍以上あります。じゃあ、最初の都市計画がおかしいのではと言われそうですが、当時は多摩ニュータウン都市構想では、人口が30万人になるという構想でした。しかしながら結局、人口があまり伸びず、大きく構想が変わってきました。東京都と国に話し、都営住宅の建て替えを前倒ししてもらいました。もともと身の丈にあっていない緑を持っているまちではありますが、それを嘆いても始まらないので、逆にポジティブに良さに転換していきたいと考えています。グリーンボランティア森木会のように一年講習を受けて低木を管理してもらっている団体もあります。国や都に対しては製造責任をしっかりと果たすようにこれからも話していきます。多摩ニュータウンの基盤整備等には3兆円近い財源が投入されています。逆に言うと3兆円の財政規模がないと維持が困難とも言えなくもないです。ただ、550億円規模の自治体としてこれを全て自前でやるのは困難です。そこについては国や東京都の協力が必要です。ブリリア多摩ニュータウンの建て替えが諏訪でありましたが、自分たちのところは自分で、周辺地域については、住宅市街地総合整備事業を適用することによって、国のお金を入れて再整備できます。次の段階では、都営住宅建て替えの機会を捉えて、住宅市街地総合整備事業を再度作って残されている諏訪・永山エリアの公園、永山南公園、永山北公園に都市計画税を投入して整備できました。都市計画決定されている公園なのでできることです。雑木林の維持には相当な手間が掛かっています。伐採するところはして、後世の負担を軽くするほかありません。当然、全てを伐採するわけにはいきません。緑は市民の憩いの場です。野良猫にとっても大事な場所です。残していかななくてはなりません。Aさんがおっしゃるとおりこれだけの規模を単独で維持していくのは難しいです。今言ったようにこういう機会を捉えて国や都の支援を頂く方策を考えてやっているのが現実です。本当はもっと丁寧に説明したいのですが申し訳ありません。緑のあり方は大

事な課題です。計画も作って終わりではありません。街路樹も審議会をやっています。

東京五輪のロードレース競技が多摩ニュータウンを通ることになりました。聖ヶ丘、馬引沢を通りまして、南多摩尾根幹線道路を通過して、上之根大通りのモミジバフウを通過していきます。なんとしても多摩市を通過していただきたかったことです。国や都によく言っていますが多摩ニュータウンは世界に誇れるニュータウンです。恥ずかしくないように仕上げたいと思っています。多摩市にお任せではなく、国や都も製造責任を考えてほしいと常々話しています。色々な機会の内閣総理大臣や東京都知事にも言っています。今回の機会を活かして全世界の人にも「多摩ニュータウン良いよね」と言ってもらえるようにしていく場にもなると考えています。

Aさん

市長が「恥ずかしくないように」と言っていました。恥ずかしくてもいいのでもっと伐採したほうがいいと思います。過去の議事録で、木を1本きるのに10万円掛かるという話を見ました。永山中学校の記念植樹が大木になり伐採したということがありました。そういう意味のない、記念植樹が意味がないということではなく、樹木の選定が間違っていたのではないのでしょうか。巨木化する木を植えないという考え方じゃないと成り立たないのではと感じます。

Dさん

近所に保育園と児童館があります。子どもたちが小学校から放課後などやって来ますが、児童館が狭くて遊び場がないようなところで、後ろに公園もありますが、公園で遊ぶ子は誰もいない状態です。たぶん諏訪団地ができたために、全部こっちに来ているのだと思います。子どもたちが児童館に自転車やスケボーで来て、夕方5時になると保護者が遠くの家から迎えに来ます。保護者は、子どもたちも乗せられる電動自転車を道に直角に停めています。近くの団地に住んでいるおばあちゃんがカートを引いて買い物に行っていますが、自転車の幅が大き過ぎて、通行人が迷惑しています。

市長

お時間過ぎているので少しお待ちいただけますか。

Eさんこれだけは言っておきたいということはありませんか。

Eさん

聖蹟桜ヶ丘に駐輪場を増やしてほしいです。前までは、ザ・スクエアに時間料金制の駐輪場があったのですが、無くなった今は無法地帯になっています。

市長

聖蹟桜ヶ丘駐輪場が今工事中なんですよ。

司会（秘書広報課長）

その関係で東側から人が少し流れているかもしれません。

市長

昔、飲食店のあった裏に駐輪場があったのですが、そこの工事が終われば少しは緩和すると思います。ご迷惑お掛けしますがよろしくお願いします。

市長

終了予定時間の 11 時 30 分を超過してしまいました。まだご発言していない方もおられますが、予定のある方はご退席いただいても大丈夫です。12 時頃には閉会したいと考えていますが、時間がある方は是非残っていただければと思います。

今日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今日は猫の話から始まり、団地の建て替え、学校跡地、みどり、駐輪場の話と限られた時間の中でしたが、ご意見をいただきありがとうございました。多摩市政は、議会や市長、職員だけではなく市民の方々の力、シビックプライドが一番大事だと思っています。このような機会があれば、また声をかけていきたいと思っています。当然、皆さんのことをクレーマーとは思っていませんので、いろいろなご意見をあげていただければと思います。

*一旦、閉会

市長

それでは、一度会は閉めさせていただきましたが、B さんは何かお話ししたいことはございますか。

B さん

自分も多摩ニュータウンについて聞きたかったので話を聞いて良かったです。

市長

ありがとうございます。

D さん

さっきの話なのですが、結局夕方 5 時になると外に子どもたちが出されてしまうので、自分の住んでいる団地の前が遊び場になってしまいます。「公園に行きなさい」と言っても

公園が遊べるような場所じゃないので声も掛けられません。無用の長物の公園になっています。対策として、空いている小学校のグラウンドに児童館を移してほしいと思っています。子どもたちは、本当に遊ぶところがありません。道路は自転車で塞がれてしまい、自分の身は自分で守らないといけない状態です。一回警察が来て、保護者の方に「ここは公道なので気をつけましょう」と言っていたこともありました。けれど、子どもたちの保護者は、人の団地の前で子どもたちを遊ばせて、時間になったら帰ります。毎日迷惑を被っています。児童館の先生は、なぜ夕焼けチャイムになったら家に帰るように指導しないのでしょうか。自分たちは涼しいところで作業されていますけど、子どもは行くところがないのか夜の7時ぐらまで団地の前で遊んでいます。

Gさん

それは児童館の人にまず言ったらどうでしょう。

Dさん

いくらお願いしても外を見になんか来ないです。もっと子どもを遊ばせられる広いところに児童館を移してください。

市長

地域によっていろいろだと思うのですが、私の耳に入ってくるのは「子どもの笑い声が聞こえない多摩市を何とかしてほしい」というのが多いです。

子どもの数は今すごく少ないです。保育園をこれからどうするかというときにも、多摩市内でも反対運動ありました。子どものときは一時です。もちろん全市的に取り組んでいますが、多摩市の学童・児童館の数は周辺市に比べて多いです。多摩ニュータウンの特殊性で各地に点在しています。これ以上公共施設を増やすのは難しく、どちらかというところ減らしていく方向に動いています。

Dさん

諏訪団地が出来たのに保育園が近くにない状態。だから永山の方に来てしまうんです。23区は校庭開放をかなり進めていて、学校の庭を夕方5時まで使って自由に遊ばせているようです。それにはボランティアさんか何かを配置する必要があるとは思いますが。住民は、そこが良くて大金を使って引っ越してきているのです。そこがマナーのない保護者やその子どもたちによって脅かされているのです。家にいる時間が長い人には、子どもたちの遊んでいる声は苦痛です。市長は、先ほど一時的と言いましたが、エンドレスです。

1年で終わるわけではありません。いつも私の住んでいる団地で避難訓練だとか、勝手に広場を使って朝7時からお祭りの神輿を作っていて迷惑しています。23区だと「お祭りをやるので何時から何時までご理解お願いします」というチラシ等があったが、こっちはそ

ういう配慮も全然ありません。先生に行政指導してください。

Gさん

地域や個人のエゴもあるのではないのでしょうか。

Dさん

エゴもあるかもしれません。生活している人にとってみると朝から送り迎えでうるさいです。保育園のお迎えは午後3時から午後7時ぐらいまで長時間なので、自転車に迷惑しています。私の住んでいる団地の植栽は維持管理に年間400万円掛かるのですが、子どもたちが法面を駆け回っています。

Gさん

行政ではなく、最初は地域の問題として対応しないとイケないのではないのでしょうか。

Dさん

いくら注意をしても直らないから困っているんです。例えば、児童館だけでも子どもたちが自由に遊べる敷地に移してほしいです。

Gさん

そんなことを言い出せば行政が成り立たないですよ。どんどん個人的な多様な要望に応えていったら。

Dさん

団地を建てる時に保育園を建てなかったこと自体がおかしいのではないですか。10台、20台じゃないですよ自転車の数は。

Gさん

それはよくわかりますよ。マナーの悪さです。けどそれは、行政がやるべきことではないです。

Dさん

行政がやるべきことだと思います。保育園の先生ができないから、そこをビシッと行政に言ってほしいです。

市長

Dさんがおっしゃっていることは、幼稚園や保育園ではよく起きていて、小中学校でも

運動会があるときは必ず、校長先生が最初のスピーチでご挨拶するのは「大きな声で地域にご迷惑をお掛けしますけれど、近隣の方におかれましてはご理解お願いします」と言っています。実は市役所にも運動会をやる時にはいろいろな電話も掛かってきます。「今日は非番で朝から家で寝ていようと思ったのに何で朝からこんなにうるさいんだ」などの声もあります。ただ、私としては24時間フルに活動されている方も多いため、自分の時間を大切にされたいという気持ちもわかりますが、ピーク時と比べると子どもたちの数は半分になっています。これからは、保育園や地域の方、Dさんの団地の方が事前に話をさせていただき、そんなことも取り組んでいただきたいと思います。ただ、子どもたちをどこか見えないところに隔離するのではなくて。

Dさん

私が言いたいのは、グラウンドが空いている学校が近くにあるのですから、児童館だけでもそちらに移せないのかというお願いです。

司会（秘書広報課長）

児童館については、諏訪にもあります。

Dさん

保育園のお迎えで、お兄ちゃんお姉ちゃんを隣の児童館で遊ばせると、お迎えがしやすいというのがあるんだと思います。できれば、保育園も移ってほしいですがそうもいかないと思いますので。

Gさん

途中で申し訳ないのですが、30秒だけ発言いいですか。多摩市のインフラ整備にこれからかなりお金が掛かってくると思いますが、現在でも橋がひび割れて危ないというところがあります。そのような中、パルテノン多摩の改修に80億円を掛けていくというお金の使い方が、私にはあまり理解できないです。私たちが楽しく、安全に過ごせる多摩市であるなら外にアピールするより、今住んでいる市民が良いなと思えるお金の使い方をしてほしいです。少し疑問に思ったので、その辺り市長はどのようにお考えですか。

市長

もちろん橋もしっかり直していきます。長寿命化修繕計画にも入っています。橋の維持管理費は、都市計画税で全て賄えるわけではないので、先ほど言った住宅市街地総合整備事業の計画を作ることによって、その中の橋についても整備していきます。パルテノン多摩については、都市計画決定をされている施設なので、都市計画税を充当できます。このため、一般財源を使うことはないで、皆さんの生活にご負担をかけることなく改修がで

きます。パルテノン多摩については、市議会でも議論していただきました。若い人が伸びやかにとということも大事ですが、一方でプラスの先行的な投資も必要だと私は考えています。パルテノン多摩は、子どもたちがダンス、吹奏楽、演劇で、近隣の大学を含めて大ホールもかなり使っていただいています。未来への投資をしていって、多摩市全体が若い人やファミリー層も住み続けられるまちにしていきたいと考えています。パルテノン多摩は、50パーセント以上が市外の人利用です。これを言うとき「市外の人使っているなら余計市民の税金を使わないで」と言われるのですが、市外の方が来ることによって、多摩センターの商店街が活性化し、日本全国にも発信が来ています。私としては、市議会にもご了解いただいたことなので、しっかりやっていきたいと考えています。ただ、これと橋梁の問題は別で、橋もしっかりと直していきます。ただ、多摩市の橋梁は181あります。八王子市など、多摩川や浅川など大きな河川があるところより多摩市の方が橋梁の数は多いです。多摩市は、ニュータウンの谷戸の上に橋梁を通してあります。橋梁については長寿命化修繕計画でしっかりと守ってしていきたいと考えています。また、最近「たまのはしフォトコンテスト」というのも企画され、多摩市の橋をアピールしようという動きもあります。

Gさん

あんな橋が181あっても仕方ないと思います。ひび割れた橋、欄干が錆びた橋です。そういうのをPRするなら、もっと遊歩道を整備して遊歩道をPRしていくのが筋だと思います。パルテノン多摩も80億円掛かるなら、それなりの予算を貯めて、それで作るならわかりますが、都市計画税が35億円あるから、後は借金でというのはどうなんでしょうか。

市長

借金と言っても全て都市計画税ではあります。毎年17億円ぐらいです。

Gさん

都市計画税で全て賄えるということですか。

市長

そうです。一般財源はまったく使いません。

Gさん

そうなのですね。わかりました。

市長

先行的な投資はどうしても必要だと思いますので、ご理解いただければと思います。

Aさん

今の件なのですが、いずれにしても橋梁にしても、これがどういう経緯で建設維持されたか書いた銘板などが日本の場合はないんですね。海外では、そういう方法で公共施設が管理されています。企業の寄付がありますとか、ホームページを見れば必ず書いてあります。寄付した企業や個人の名前も書いてあります。日本では広報という印刷物で、多摩市も紙の使用が多すぎるのではないのでしょうか。その場にあるものに銘板を作って知らせていくことも広報だと思います。その辺を考えないと、同じ考え方を持っているのに、見方によっては正反対な意見が出てくることもあります。その度に、市長が言ったコミュニケーション、それが何のために作られたのか、誰のために作られたのか理解されていないとコミュニケーションになりません。猫の問題も同じだと思います。印刷物とか広報紙で知らせるだけではなく、そういう配慮をした方が良いと思います。

市長

いわゆるアイデンティティ。自分のまちにとって、これがどういう意味があるのだろう。そうしたものが日本には欠けていると私も感じます。特に、ニュータウンのように新しいまちでは次の世代に伝えていく財産として、アイデンティティは私も必要だと思います。地方のまちに行けば一杯あると思うんです。昔の組合が頑張ったおかげで、この溜池は作られているとか、あるいはこの用水路はこういう理由で作られたとか。先ほど話が出た橋もですが、それぞれに名前の由来があり、そういうことを今住んでいる人、未来の人に残していけるようにする必要があると思います。確かに錆び付いていたりというところもあって気になることも一杯あると思いますが、橋梁についても毎年手を掛けています。確かにスピードが間に合わないというのがありますが、安全性にはしっかり配慮しています。色々な声があると思いますので、子どもの声についてもどうするのが良いか自問自答していきたいと思います。日本の未来を考えるとダイバーシティを進めていく必要があります。他民族の受け入れについて、今までは難しかったですが、これからインバウンド、つまり外国から日本に来る方がどんどん増えていきます。日本でもそういう人が日本に住みたいと思えば一緒に住んでいく、そういう社会に変わらないと100年後、200年後の日本社会は終わってしまいます。100年先を見越し、インフラ整備進めていきます。多摩市が挫けたら日本全国がおかしくなるという気持ちで、市民の方とも一緒に汗を流して頑張っていきたいと考えています。

かなり時間過ぎてしまいましたが、何かあれば、何もなくてもどんどん声を出してください。これからも市政への提言をよろしくお願いします。